

国語教育相談室

中学校
no.
68

光村図書



特集

新版教科書Q&A

巻頭
エッセイ

俳人デビュー
小林聡美

教師力
講座

新版教科書、
こんなふうに使ってみたい

古典への
扉

決め台詞は七五調

書写

新版教科書で、
楽しい書写授業を



明日の国語力

平成24年度版中学校国語教科書準拠

光村「国語デジタル教科書」

ポイント
1

全員で見る大きな教科書

ポイント
2

新たに「文学」「説明文」「文法」も収録

ポイント
3

授業をサポートする豊富な資料

光村「国語デジタル教科書」1～3年(学校フリーライセンス) 税込価格 各学年 68,250円(本体価格 65,000円)

※学校フリーライセンスとは、校内でご利用になる指導用パソコンの台数を制限しない契約です。※価格には、サーバやパソコンへのインストール費用は含まれておりません。

体験版, 配布中! 詳しくは右記ホームページまで。http://www.mitsumura-tosho.co.jp

光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.146 2012(平成24)年4月13日発行 定価126円(税込)
発行人=常田 寛 発行所=光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
http://www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所=村田印刷工業株式会社 デザイン=mint grafix

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
http://www.mitsumura-tosho.co.jp 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

じゃあ

早稲田大学教授
森山卓郎

子どもたちが育っていく中でぜひとも大切にしたい「魔法の言葉」というものがあるとすれば、どんな言葉だろう。「ありがとう」「ごめん」はもちろん大切だ。感謝や申し訳なさを表したりすることは、人間関係の維持に欠かせないからだ。「ありがとう」の一言が、まるで春風のように心を温かくし、「ごめん」の一言が、つらく凍りついた心を溶かしてくれた、といった経験は、誰でもある。

しかし、私は「魔法の言葉」として、「じゃあ」を第一に挙げたい。以前、ある幼稚園でこんな光景を目にした。ブランコにずっと乗っている子どもがいる。すぐ傍にもう一人幼児がいて、「かーわって」と何度も連呼して

いる。無視して乗り続ける幼児と、壊れたレコードのように「かーわって」を繰り返す幼児。どちらも年長児くらいで、何か話ができそうなもののなのに、そこに交流はない。やがて待っていた子はあきらめて去っていき、乗っていた子もびいどろかへ行ったのだった。もしここに「じゃあ」があればどうなったか。「じゃあをきっかけとして、何らかの進展があったはずだ。「じゃあ、あと何回?」というように「交渉」が生まれることもあるだろう。「じゃあ、宇宙まで行ったら交替」なんていうめちゃくちゃな回答でも、少なくともそこから「やりとり」が生まれる。そもそも「じゃあ」は、「それ」で「は」というように、何かの状況を受

け入れ、それに対応して「次」へ移るという接続表現だ。「じゃあ」がある限り、次がある。まさに魔法の言葉だ。子どもたちの育ちの中で、さまざまに「じゃあ」を使ってほしいな、と思う。「じゃあ、〜ということ?」のような相手の思いの確かめ、「じゃあ、いいよ」のような相手の受け入れ、そして、「じゃあ、こうしよう」というような状況に応じた提案。感情的にこじれた場合でも、「じゃあ、どうしたいの?」で、解決へ向けた話し合いができる。失敗したときも、「しかたがない。じゃあ、どうしたらいいか」というように、現実的で前向きな対応が考えられる。そして、この言葉はお別れの挨拶にもなる。——じゃあ!

CONTENTS

探検!言葉の森 17 じゃあ ————— 森山卓郎

巻頭エッセイ 言葉と向き合う 02 俳人デビュー ————— 小林聡美

特集 04 新版教科書 Q&A

確かな言葉と豊かな人間関係を—新版教科書に込めた願い

————— 光村図書出版 中学校国語編集部

【新教材】作者・筆者より

教師力講座 番外編 14 新版教科書, こんなふうに使ってみたい ————— 甲斐利恵子

古典への扉 5 18 決め台詞は七五調 ————— 東野奈子

書写の時間を 楽しく 1 20 新版教科書で, 楽しい書写授業を ————— 清水陽一郎

24 平成24年度版 移行資料

俳人デビュー

女優

小林聡美

最近、俳句をはじめた。
いよいよ俳句である。
三十を過ぎた頃から趣味の園芸に目覚め、三十代半ばから冷え性解消の漢方薬のお世話になり、毎年巡ってくる桜の季節に感無量、ああ自分も順調に齢をかさねているなあ、とほうじ茶をすすりながらシミ、ジミしはじめた四十手前で奥田民生に熱狂、ここでやや巻き返し感はあるものの、そこから美空ひばりに開眼。そうしているうちに端唄の面白さに惹かれ、勢いで三味線を習い始めるも三か月で挫折。そんな四十も過ぎた頃に友人に誘われてでかけた落語会。そこで一気に落語のおもしろさに夢中になり、気がついて、その落語仲間と句会発足の流れに。こうして俳句をはじめると、中高年の趣味の変遷としてはごく平凡な流れともいえるが、バブル全盛時に青春時代をすごした世代としては、「俳句が楽しみ」とは、かなりな隠居感が漂う。われわれ四十代女性は、今日では「美魔女」とか「四十代女子」とか得体のしれないジャンルで括ら

れることもあり、おしゃれ雑誌も百花繚乱。まだまだバブル時代の栄華を抜け切れていない感がある。実際にワタシの同世代のともだちに落語だの俳句だのを熱く語っても、「……へえ」で会話は終わってしまふ。確かに、家族や親戚に俳人がいたとか、学校が俳句教育に熱心だったとかでない、そうそう俳句に興味があるかないかというの無理のない話かもしれない。

そんな中、句会結成にあたって集結したのは、ワタシを最年長にして、最若年が三十八歳の総勢六名。美魔女とも「女子」とも括れない、ナイスミディである。

ら、その共感できない、というのは単に自分の経験値の低さであって、これから生きていく中で、ある日突然、ヘレン・ケラーが水という言葉に気がついたように「えーっ！ ああ句ってこういうことだったのぉ？」となる日が来ないとも限らない。そこがまた、俳句のおもしろさなところである。

月に一回開催される句会は参加者全員が、自分の選んだ天・地・人の三句に授与する賞品を持つてくることになっている。天が千円、地・人がそれぞれ五百円相当のちよつとしたものである。それを

そのうちの一人はフィンランド在住、スカイプで参加という、最新(?) システムを導入した、隠居感とは程遠いネオ俳句会である！ どうだ！ とはいうものの、最年長がこのワタシで、誰もが俳句未経験、という、俳人協会の神経を逆なでするようなわれわれの句会は、すべてが手さぐりである。そもそも句会ってなに？

そこでわれわれが手にしたのは「東京やなぎ句会」の単行本である。「東京やなぎ句会」とは落語家の入船亭扇橋さんを宗匠とした落語好きのオジサマたちから構成される四十年以上も続く由緒ある句会である。メンバーも永六輔さん、小沢昭一さん、桂米朝さん、柳家小三治さんなどそうそうたる顔ぶれ。その本におさめられている数々の名句と並んで掲載されている句会実況中継は、実に賑やかで愉しげで、「俳句で遊ぶ」という表現がびつたりである。俳句という、今まで見たこともないような難しい漢字や、「し〜かな」といった昔の言葉遣いがでてきたりして、なんか、そういうこと

選ぶのも楽しい。五百円で「おっ！」といわせるようなものを探すのはなかなか難しい。句会の賞品は、思い出したときになんとなく探していることが多いが、次の句会の兼題の俳句となると、なんとなく常に頭のどこかで考えている気がする。俳句を考える作業は、なんだか、写真撮るのに似ている。風景を切り取る。情景を切り取る。記憶を切り取る。それにどんなキャプションをつけるか。なんて、こんな甘つちよろいことを言ったら、またまた俳人協会に青筋を立てられるかもしれないが、今のワタシの俳句作成の頭の回路はそんな感じである。

目下の問題は、われわれの句会には宗匠と呼べる人物がいないことである。みんながみんな、やりたい放題。しかし、へんてこりんな俳句を作っても、お仕置きされるわけなし、月に一回、それだけがそれなりのアタマを最大限(?) に絞って、五・七・五に向き合っている。目指すは「東京やなぎ句会」の五百回！ ちなみにこちらまだ五回です……。

俳句の魅力は、五・七・五という限られた言葉で表現する、その世界観だと思う。いい句だとかよくないとかいうのは、結局、その世界観が好きか嫌いか、ということなのではないだろうか。どんなに名人といわれるひとが作った句であっても、その世界に共感できなければ、感心することはできない。一方で、その俳句が含む語感や感覚に共感し、情景や句いまで浮かび上がるような句に出会うこともある。それはまさに、その世界観を共有できた瞬間といえる。しかし、もしかした



小林聡美
こばやしさとみ

女優。1965年東京都生まれ。代表作は、映画「かもめ食堂」(’06)、「めがね」(’07)、「プール」(’09)、「マザーウォーター」(’10)「東京オアシス」(’11)、テレビドラマ「やっばり猫が好き」(’81〜’91)、「すいか」(’03)、舞台「ハーバー・リーガン」(’10)など。「ワタシは最高にツイている」、「アロハ魂」(ともに幻冬舎)など、エッセイ集の出版も多数。

特集

新版教科書

Q & A

いよいよ、生徒たちが新しい教科書を手にします。新版教科書では、生徒たちの「国語の力」を育むため、これまで以上に、さまざまな工夫をしています。本特集では、先生方からいただいたご質問に答えるかたちで、その工夫の一部をご紹介します。

確かな言葉と豊かな人間関係を ——新版教科書に込めた願い

光村図書出版
中学校国語編集部

東日本大震災から一年がたちました。私たちは、この未曾有の災害の中で、人々との結びつきの大切さを改めて痛感しました。復興への取り組みのなかで「絆」という言葉をよく目にしますが、それが象徴しているものは、まさに言葉の力、国語の力なのではないでしょうか。

言葉の力は、人を勇気づけ、心を開き、人と人をつなぎ、未来を切り開いていきます。私たちは、それを国語の教科書でしっかり具現化していくことが必要だと思えます。

こうした考えに基づき、新版教科書では、生徒たちの生涯に寄り添い、確かな言葉を身につけ、豊かな人間関係を築く力を培っていくために、次の三つを大きな柱に据えました。

一 学習のスタートとゴールが はっきりと見える教科書

国語は「どんな力が身につくのか」「ゴールが見えにくい」と言われます。そのため「学習目標を明確に立て」「自分が今何を学習しているのかわかり」「スタートと過程、ゴールがはっきり見える」ことを心がけました。

二 自分で考え、表現するための 具体的な手立てを示した教科書

単に「自分の言葉で考えよう」「わかりやすく話そう」などと言うだけでは、なかなか生徒は理解できません。ですから、そのための「観点」や「手順」「例示」を丁寧に示しました。

三 学んだことが 日常の場で生きる教科書

国語の授業で学んだことがその授業のなかだけに閉じずに、他教科や日常に、そして将来に生きるように、すべての教材で「実用の場、日常生活への還元」を意識しました。

本特集では、こうした方針のもとで編集しました教科書を、効果的にお使いいただくためのヒントをいくつか取り上げています。ぜひ、日々の授業の参考にしたいだければと願っています。

Q1

小学校との連携はどう図られていますか。

A1

一年の最初に、「言葉に出会うために」という新教材を位置づけました。

新版では、小中の技能の系統性を重視し、構成を工夫しました。また中一ギャップの軽減を図るために、一年の最初に、「言葉に出会うために」という新教材を位置づけました。言葉を自分のものとしていくために必要な技能を八つの観点（声を届ける・書き留める・本と出会う・調べる・言葉を読む・言葉を知る・言葉を楽しむ・いにしへの言葉に出会う）に分けて、それぞれの具体的な学習のしかたを丁寧に解説しました。

これは、いわば「プレ単元」というような考え方です。声の出し方やノートの取り方、図書館や辞典の使い方など、四月段階に先生方がまずは押さえられるという、基本的な学習事項を、小学校での学習を振り返りながらまとめたページです。

Q2

学習指導要領の改訂を受け、古典教材の扱いはどう変わりましたか。

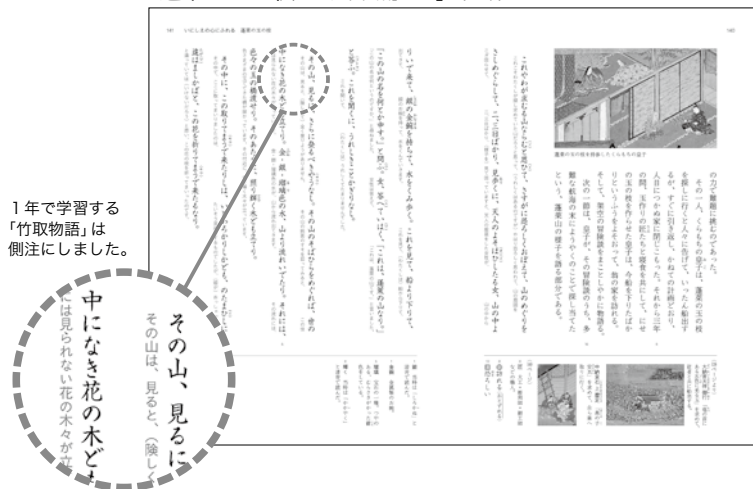
A2

小学校で学習したことを緩やかに継承しながらも、古典の世界の奥深さを味わうところを目ざし、教材化を見直しました。

「七夕に思う―語り継がれ、読み継がれてきたもの」(1年)



「蓬菜の玉の枝―「竹取物語」から」(1年)



「言葉に出会うために」(1年)



今回の学習指導要領には、「伝統的な言語文化」が新設され、小学校から古典が扱われることになりました。そのため、中学校では、小学校で学習したことを緩やかに継承しながらも、もう少し古典の世界の奥深さを味わうところを目ざしました。

一年の最初に新設した「七夕に思う」は、七夕にまつわる和歌や俳句を紹介した教材です。身近な伝統が、万葉の昔から受け継がれ、今の自分にもつながっていることを最初に感じてもらいたいと願いました。

中学校における古典の学習は、内容を理解し、よく読み味わうことが大切です。そのため、新版では、現代語訳を強化しました。「竹取物語」を側注にしたほか、各学年の最初の古典教材には、丁寧な対訳を付けています。

また、各学年の古典教材の後ろには、古典をテーマに書く活動につなげる「練習」教材を置きました。昔の人の考え方を読み取り、自分たちの考えを深めながら書くことを主なテーマにしています。

Q3

新しい文学作品はどういう観点で位置づけられましたか。

A3

予定調和的にハッピーエンドで終わるのではなく、生徒に続きを考えさせるような、オープンエンドの構成をとった書きおろしの教材を、各学年に位置づけました。

書きおろしは、より教材に適した文章を作者と話し合いながら作り上げていくというメリットがあります。今回は、生徒と等身大の主人公であることと、作品の続きを生徒たちが考えることができるようなオープンな構成をテーマにお書きいただき、

各学年に位置づけました。一年「星の花が降るころに」、二年「アイスプラネット」、三年「蟬の声」です。
一年「星の花が降るころに」は、少女期の繊細な感情を細やかに描きだすことに定評のある、安東みきえ先生にお願いしまし

た。この作品でも、心の葛藤や迷いが丁寧に描かれ、またラストの決意がありきたりでなく、考える余地のある文学性の高い教材です。
二年の「アイスプラネット」は椎名誠先生にお願いしました。男の子が主人公で、魅力的なおじさんが出てきます。世界を肯定的に捉えること、視野を広くもつことなど、大切なメッセージが詰まった教材です。
三年「蟬の声」は、浅田次郎先生にお願いしました。戦争を扱ったお話ですが、三年の進路を考え始めるときに、ふと立ち止まって大切なことは何かを考えさせられる教材です。



「星の花が降るころに」(1年)

「水をばしゃばしゃと顔にかけた。冷たかった。溶け出していた魂がもう一度引っ込み、やっと顔の輪郭が戻ってきたような気がした。」

友情の微妙なすれ違いや、ほのかな恋愛感情をテーマにした作品。



「アイスプラネット」(2年)

「いっぱいの『不思議アタマ』になって世界に出かけていくとおもしろいぞ。」

居候の叔父に寄せる複雑な心理と、広い世界へのいざないを描いた作品。



「蟬の声」(3年)

「和男は痩せた祖父の体を抱きかかえた。『今の話も、ないしょだぞ。いいな、カズ。じいちゃんど約束しろ。』」

今まで秘めてきた戦争についての思いを祖父が孫に語る。戦争とは何か、改めて考えさせる作品。

Q4

新しい説明文の特徴は何ですか。

A4

科学的内容だけでなく、哲学や美術など幅広い分野の説明文を扱いました。また、「記録」や「論説」など、さまざまな文種を扱い、論理構成を吟味しました。

評論」「三年「ネット時代のコペルニクス」は「論説」など、多様な文章に出会うことができます。

これまでの教科書では、科学的内容の説明文が多かったのですが、今回は、哲学や美術といった人文科学を含めた幅広い分野の説明文を扱っています。例えば、二年に「君は『最後の晩餐』を知っているか」という、レオナルド・ダ・ヴィンチの絵画について述べられた説明文を掲載しています。それから、論理構成のしっかりした文章という視点で、吟味を重ねました。論理構成といっても多様な形がありますが、頭括型、尾括型、帰納的あるいは演繹的な叙述、また、仮説・検証型など、題材に適した展開を工夫しています。学習指導要領でさまざまな文種が提示されたこともあり、例えば一年「シカの『落ち穂拾い』」は「記録」の文章で図表も多く、「非連続テキスト」に対応しています。二年「君は『最後の晩餐』を知っているか」は「評論(美術

説明的文章一覧 【 】は文種

1年	【説明】「ダイコンは大きな根？」 稲垣栄洋
	【説明】「ちょっと立ち止まって」 桑原茂夫
	【随筆】「江戸からのメッセージ—今に生かしたい江戸の知恵」 杉浦日向子
2年	【記録】「シカの『落ち穂拾い』—フィールドノートの記録から」 辻 大和
	【説明】「流氷とわたしたちの暮らし」 青田昌秋
	【説明】「やさしい日本語」 佐藤和之
3年	【情報】「メディアと上手に付き合うために」 池上 彰
	【説明】「五重の塔はなぜ倒れないか」 上田 篤
	【評論】「君は『最後の晩餐』を知っているか」 布施英利
3年	【論説】「モアイは語る—地球の未来」 安田喜憲
	【論説】「『批評』の言葉をためる」 竹田青嗣
	【説明】「月の起源を探る」 小久保英一郎
3年	【随筆】「光で见せる展示デザイン」 木下史青
	【随筆】「『記憶』と『資料』」 沢木耕太郎
	【論説】「ネット時代のコペルニクス—知識とは何か」 吉見俊哉
3年	【随筆】「アラスカとの出会い」 星野道夫
	【評論】「聴くということ」 鷺田清一

「君は『最後の晩餐』を知っているか」(2年)

美術をテーマにした説明文。「最後の晩餐」は修道院に描かれた壁画です。その迫力を表現するために、作品を折り込みページに掲載し、大きく見せるよう工夫しました。



Q5

生徒が主体的に学習できるように配慮はありますか。

A5

生徒が「自分で考える姿勢」を育てたいと願い、手引きを構造化しました。

ステップ1
確認しよう

教材内容を確認したり、初読の感想を発表したりする設問。予習として家庭学習で扱うことも可能です。

「月の起源を探る」(3年)の手引き (P49)

今回、手引きの設問を三つのステップに構造化して「読みのプロセス」を明示しました。これは「読むこと」教材共通の構成です。

ステップ1「確認しよう」は、教材内容を確認する設問です。どんな生徒でも声を出したり活動したりできるよう意識しました。ステップ2「読みを深めよう」は、読解のための設問です。「学習の窓」と合わせて学習できます。ステップ3「自分の考えをもとう」は、ステップ1・2を通して深まった教材理解をもとに、自分と向き合い、自分ならどう考えるか、どう評価するか、といったところまでふれています。

この三つの設問を、さまざまな教材で繰り返し行っていくことで、「自分で考える姿勢」を習慣として身につけてほしいと願います。

ステップ2
読みを深めよう

図表の読み取りや評論の読み方など、教材に応じた着目すべき点を挙げて、読み取りの手立てを丁寧に示しました。

ステップ3
自分の考えをもとう

「自分ならどう考えるか」を問う設問です。繰り返し設問に臨むことで、自分の意見をもつ姿勢を身につけていきます。

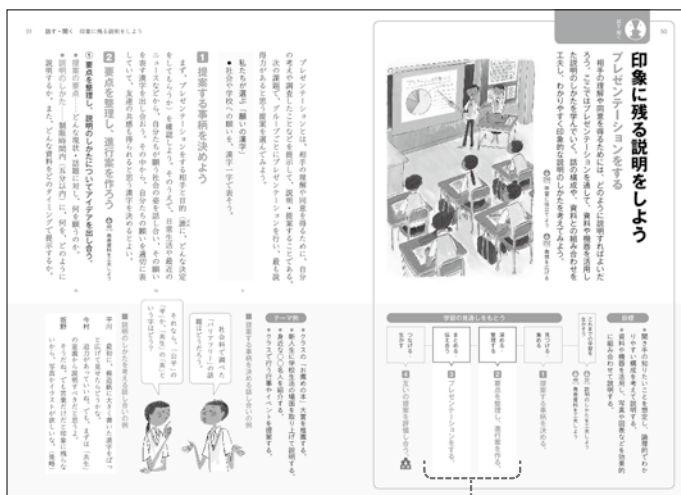
Q6

少ない時間数で効果的に指導できる工夫はありますか？

A6

「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、限られた時間でメリハリのある指導ができるよう構成を工夫しました。

「印象に残る説明をしよう」(2年)



どこに重点を置いて指導すればよいかひと目でわかるよう、白抜き・太線で目立つようにしました。

「練習」教材

身につける力を焦点化した、1時間・1ページのコンパクトな教材です。指導事項が絞られているので、観点別評価にも柔軟に対応できます。

練習「発表資料を工夫しよう」(2年)



「話すこと・聞くこと」「書くこと」の「学習の見通しをもとう」では、指導の重点箇所にあたる過程は白抜き・太線で目立つようにし、時間数がない中、メリハリのある指導ができるようにしています。

また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の「練習」教材は、配当時数1時間、一ページ構成のコンパクトな教材です。従来の教科書では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材数が少ないため、学期ごとの観点別評価がしづらいというご意見がありました。また、取材や話題決定に時間がかかり、目標を達成するところまで行き着かないという声もありました。「練習」教材は、一つの力をピンポイントで身につける教材です。話し合い例や課題が初めから示されているので、準備の必要がありません。

「練習」教材で身につけた力を、その後の大きな活動の中で生かしていくという「習得→活用」の教材構成を図っています。

新教材

作者・筆者より

これまで、弊社ホームページや、「国語教育相談室」などで、作者や筆者が作品に込める思いをうかがいました。その一部をご紹介します。

「新しい短歌のために」 (2年)

ばば
馬場あき子



なにより、中学生に短歌を好きになってもらいたいという思いです。(中略) 詩や歌曲をはじめ、いろいろなものが散文的になっています。だからこそ、これからの時代を生きる子どもたちには、響きや韻律による言葉の豊かさ、美しさ、うるおいといったものにしっかりとふれてほしいと思っているんです。

(中学校「国語教育相談室」64号より抜粋)

「星の花が降るころに」 (1年)

あんどう
安東みきえ



この頃の子どもって、特に友人関係では、ほんとうに小さな悩みでも、すぐく落ち込んでしまいます。(中略) いっぱい嫌なことはあるけれど、それでも頑張ってそれを「やり過ぎ」タフさをもってほしい。そんな願いを、最後の「大丈夫、きっとなんとかやっていける。」という言葉に込めました。

(中学校「国語教育相談室」64号より抜粋)

「アイスプラネット」 (2年)

しいな まこと
椎名 誠



僕は子どもたちに、スケールの大きなことを考えたり、やったりしてほしいと思っています。現代社会は、ともすれば小さい枠にはめ込もうとする力が強く働いています。そこから外に出る力をもってもらいたい、というメッセージを込めました。

(中学校「国語教育相談室」64号より抜粋)

「シカの『落ち穂拾い』」 (1年)

つじ やまと
辻 大和



教科書に掲載したのは、宮城県金華山島でニホンザルの食物の調査中に、たまたま観察した出来事がきっかけで、はじまった研究についての内容です。(中略)

読者のみなさんには、身近な生き物たちのつながりに関心をもていただき、「生物多様性」だとか「生態系」というキーワードが、決して遠い世界のことでなく、ごく身近にあるのだということに気づいてもらえれば、と思います。

(『学習指導書1年』『筆者の言葉』より抜粋)

「蟬の声」 (3年)

あさだ じろう
浅田次郎



僕は、自分の書いたものによって、百人に一人、千人に一人でもいい、きちんと自分の人生を見つめ、方向を考えてくれる子どもがいてくれれば、それでいいかなと思う。戦争、祖父と孫、そういうテーマを通して、自分たちの血脈を真摯に見つめてもらうこと。この作品が、そういう一助になればと願っています。

(中学校「国語教育相談室」64号より抜粋)

「月の起源を探る」 (3年)

こく ぼえいちろう
小久保英一郎



自分で研究をするようになってから月の見方が少し変わったように思います。今は涼しい顔をしている月ですが、衝突と集積という激しい過程を経て熱く生まれてきたかもしれない。そう、月は地球形成の名残の月ともいえるのです。(中略) 最近は、理科が好きではない生徒が多いと聞きます。科学は自然を読み解くすばらしい学問であり、楽しいものだということが少しでも伝わればうれしく思います。

(『学習指導書3年』『筆者の言葉』より抜粋)

「君は『最後の晩餐』を知っているか」 (2年)

ふ せひでと
布施英利



僕は、初めてこの絵(「最後の晩餐」)の前に立ったとき、なぜか「カッコいい。」と思った。それはただ直感というのか、芝居の舞台で、幕がパッと上がった瞬間と似ています。修道院の食堂に入った瞬間に、「わっ」、「カッコいい」、という感じでした。理屈ではなく、名画が直接心に与える衝撃とでもいうのでしょうか。この教材には、その衝撃がどこからきているのかを書きました。

(光村図書ホームページ「シーズン・インタビュー 2011 年春」より抜粋)

新版教科書、 こんなふうに使ってみたい

平成24年度版教科書には、多くの新しい教材が入りました。
本連載「教師力講座」で、さまざまな実践を紹介している甲斐先生は、
新教材でどのような授業をされるのでしょうか。そのアイデアをお聞きました。



東京都港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子

「新教材を見ながら、『ここで子どもたちはどんな反応をするだろう』と想像すると、ワクワクしてくるんです」と甲斐先生。

『批評』の言葉をためる (三年)

「まず、新版教科書の中で、特に『いいな』と思われる新教材を教えてください。」
甲斐 三年一学期に位置づけられた『批評』の言葉をためるは、とてもいいと思います。

私は、二年の後半ぐらいから、子どもたちに『批評』という心の動きが出てくると思っています。例えば、二年三学期教材『走れメロス』で、メロスが走るのをやめてしまうシーンを学習したとき、「友を裏切るなんて許せない」という感想だけでなく、「人間ってそういうところがあるよね」、「人間の真実が描かれていると思う」という感想を述べる子どもがいます。

そういう『批評の芽生え』が出てくるのは、この時期なんですね。

ですから、三年一学期に批評について述べた教材があることは、とてもありがたい。単なる「好き・嫌い」を超えたところに、物事を理解する近道があるということが、とてもうまく文章にまとめられていると思います。少し大げさかもしれませんが、中学三年で、この教材を学習したかどうかは、その後の人生にかかわってくると思いますよ（笑）。

それから、この教材は、「握手」（三年）の後に位置づけられています。私だったら、「握手」の前にこの教材を学習し、批評的な視点をもって、「握手」を読ませたいですね。ただ、「ルロイさんが好

き」「ルロイさんの気持ちがわかる」というだけでなく、わかったうえでどう考えるのか。そこまで踏み込んで授業をしてみたいと思います。

『蟬の声』 (三年)

「今回、文学教材では、書きおろしの作品を、各学年に位置づけました。先生の心に留まった作品はありましたか。」

甲斐 「蟬の声」（三年）は、読んだ後に涙がじわっとあふれました。個人的な話になりますが、私は、「祖父母と孫」という一世代超えた関係を描いた作品が、とても好きなんです。心の交流のあり方が独特で魅力的だと思います。

『星の花が降るころに』 (一年)

「他の作品については、いかがですか。」

甲斐 「星の花が降るころに」（一年）も、いいですね。中学生の女の子の人間関係の描写がすばらしいと思います。子どもたちは、きつと感情移入してこの作品を読むことでしょう。しかし一方で、物語にどっぷり浸かることができるため、「夏実って、ひどいと思う」など、感情をぶつける議論になってしまふことも考えられます。

ですから、私は、この教材で「作品を語り合う」という授業をしたいと思っています。登場人物の心情だけを追っていくのではなく、少し距離を置いて、「この場面はインパクトがあるよね」、「このセリフが効いているね」などと、客観的に読ませて



「星の花が降るころに」(1年)
「わたしは自分の心臓がどこにあるのかがはっきりわかった。ときどき鳴る胸をなだめるように一息を吸ってはくと、どこちなく足を踏み出した」
「心情や情景の描写がとてもいいですね。これらの描写について、子どもたちと語り合ってみよう」と甲斐先生。

みたい。
子どもたちは、「人物設定」「ストーリー展開」「情景描写」などの言葉を教えると、すぐにその観点を獲得して、作品を読むことができます。ですから、そういう観点を示してあげてから、「『星の花が降るころに』を語り合おう」という単元を設定してみたいと思います。

『シカの『落ち穂拾い』』 (二年)

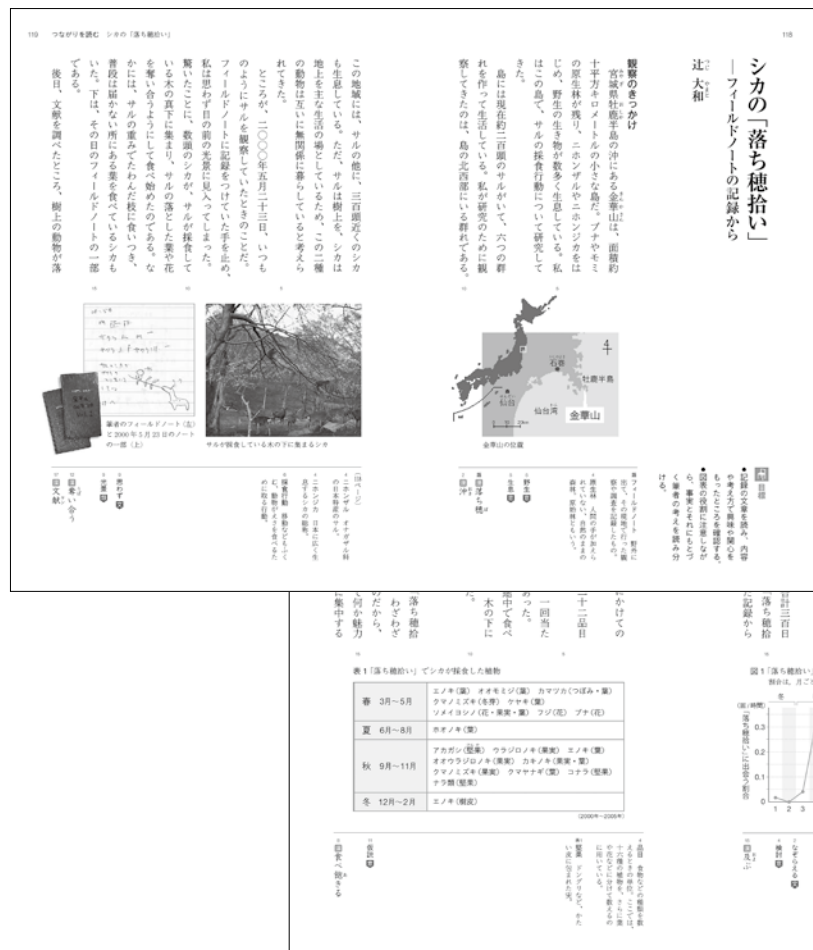
「説明文については、いかがですか。」

甲斐 読み応えのある魅力的な文章がたくさん掲載されました。私は特に「シカの『落ち穂拾い』」フィールドノートの記録から（一年）がおもしろいと感じています。「観察のきつかけ」「観察からわかったこと」「仮説」……と、小見出しがついていて、物事を解明していくプロセスがわかりやすい。そういう文章のスタイルを学ぶのに最適な教材です。また、さまざまな図表が示されていて、図表の役割を考えさせるのにも、よい教材です。

この教材は、観察記録文ですよ。ですから、私は、子どもたちにも実際に観察をさせて、文章を書かせたいと思います。教材を一通り学習した後、「じゃあ、二週間



「シカの『落ち穂拾い』」(1年)
「シカはなぜ『落ち穂拾い』をするのか」という疑問を、図表を交えてわかりやすく紹介した仮説検証型の説明文。



と思いますよ。そうやって、楽しみながら、「シカの『落ち穂拾い』」の文章のスタイルを学習させたいと思います。

「自分の魅力を伝えよう」 (三年)

最後に、「話すこと・聞くこと」教材については、いかがでしょう。

甲斐 三年生に「自分の魅力を伝えよう」記者会見型スピーチをする」が入りました。子どもたちって、自分をアピールすることが苦手なんです。日本人の気質なのかもしれないんですが、自分を自慢するようなことに慣れていない。しかし、いずれ入試などで自分をアピールする場面が必ず訪れます。ですから、この教材がここに位置づけられたのは、とてもよいことだと思いました。実は、私は以前、三年生にこの教材に通じるような単元を設定したことがあるんです。「おぬし、ただものではないな」という単元名なのですが。――おもしろそうですね。どんな授業をされたのですか。

甲斐 「おぬし、ただものではないな」と、人に思わせるような文章を書く、という単元です。例えば、「〇年、〇〇県に生まれる。生まれたときの体重は三九〇〇グラム



で、赤ん坊の巨大さに両親は絶句したという」とか(笑)、自分を客観的に語らせるんです。最後にみんなで文集にまとめたのですが、それを読み合ったら、「自分をアピールするのっておもしろいね」と、クラスがとても明るい雰囲気になりました。この教材を学習する前に、「おぬし」のような単元を設定してもいいかもしれないですね。

自分をアピールすることに慣れていない子どもたちには、「アピールするための観点」を示してあげることが必要です。努力したこと、自分なりに工夫したこと、自分で発見したことなどです。そして、そうい

後に、またこの単元を再開します。その間、みんなは観察をするように」って。――どんな観察をさせるのでしょうか。

甲斐 観察のテーマは、みんなで出し合ったら楽しいと思います。「Aくんの読書量が多いのはなぜか」、「なぜ、うちのクラスは、帰りの学活の開始時間が遅れるのか」、「なぜうちのサッカー部は強いのか」とか、何でもいいんです。「観察したい」と思ったことを調べることが大事。日常生活に近いテーマであればあるほど、客観的に観察して根拠となるデータがまとめやすいと思います。グループごとに観察させてもいいかもしれません。

例えば、「なぜ、うちのクラスは、帰りの学活の開始時間が遅れるのか」というテーマで観察するとしたら、「観察からわかったこと」で、「六時間目が終わった後、隣のクラスに遊びに行く人が〇人、帰りのしたくをしている人が〇人」とグラフで示すとかね(笑)。そして、「学級委員が声をかけると、学活の開始時間が遅れないのでは」という「仮説」を立てて、それを検証する。

一見くだらないと思われることを、大真面目にデータをとったり、アンケートをとったりしたら、授業はすごく盛り上がるうエピソードをなるべく具体的に話すと、おもしろさや説得力が増すことを教えるのも大事です。

また、この教材では、聞き手である「記者」が重要な役割を果たします。相手のよいところを引き出すような質問をしなければなりません。二年三学期に「身近な人の『物語』を探る―インタビュ―をして文集にまとめる」という教材で、話の聞き方や質問のしかたなどを学習しているので、振り返るとよいでしょう。私が以前行った「質問力を考える」という単元(『国語教育相談室』67号 P15参照)もこの「記者会見型スピーチ」につながっていくと思います。

自分がこの教材で授業するとしたら、「記者会見型スピーチ」の後に、会見をふまえて、もう一度自己アピールをまとめさせたいですね。記者の質問により、自分を見る観点が変化しているはずですから。きっと、よりパワーアップした自己アピールが考えられるようになっていくと思います。

――今日は、さまざまなアイデアを教えてください。ありがとうございました。新教材を使った授業を、ぜひ次号以降でご紹介したきたいと思います。

決め台詞は七五調

神戸女学院大学非常勤講師 東野泰子 ひがしのやすこ

「一かけ二かけ 三かけて」

かなり幼いころ、どこでだれと歌ったのか、記憶もさだかではないが、こんな手遊び歌を歌っていた。

一かけ二かけ 三かけて
四かけ五かけ 橋をかけ
橋のらんかん 腰おろし
はるか向こうを 眺むれば
(…中略…)

わたしは九州 鹿児島
西郷隆盛 娘です

この『一かけ二かけ三かけて』は近年、耳にすることもなくなった。「西郷隆盛の娘」はさすがに今となつては古すぎるのだろう。同じく手遊び歌の「みかんの花咲く丘」(作詞…加藤省吾)はいまどきの小学生も歌っていることがある。

みかんの花が 咲いている
思い出の道 丘の道
はるかに見える 青い海
お船がとく 霞んでる

二つの手遊び歌は、メロディ・リズムがそれぞれ違えど、どちらも七五調の歌詞である。これらのほか、幼稚園や小学校で歌っていた『ウミ』(「海はひろい大きないな…」)や『鯉のぼり』(「鯉の波と雲の波…」)、中学校で合唱した『荒城の月』(「春高樓の花の宴 めぐる盃 かげさして…」)や『花』(「春のうららの隅田川 のぼりくだりの 船人が…」)など、七五調の歌は少なくなかった。「マッチ一本 火事のもと」とめてくれるな おつかさん」といった、テレビなどで耳にする標語やキャッチフレーズの場合も、七五調は耳に残りやすく、最も基本的な日本語のリズムとして、私の身

には刻み込まれている。

しかし、『荒城の月』や『花』は、詞が文語であり、メロディも今風ではないせいか、現在ではあまり歌われないようで、知らない生徒も多くなった。はやりの歌やキャッチコピーにも七五調はあまり見られない。

そのせいか、授業で和歌を扱うと、なんだか身構える生徒がふえた。短い詩型に圧縮された意味をとらえる難しさもあることながら、それ以前の問題として、『五・七・五・七・七』のリズムが体感しにくいらしい。音読してもらうと、例えば、「人は、いさ心も、知らず……、『いさ心』って何ですか?」というようなことになってしまう。教える側が思う以上に、いまの子どもの持っている日本語のリズムは、昔と違ってきているのかもしれない。

「何だかんだと聞かれたら」

とはいえ、現代の子どもたちがよく知っているもののなかにも、七五のリズムがないわけではない。

何だかんだと 聞かれたら
答えてあげるが 世の情け
世界の破壊を 防ぐため
世界の平和を 守るため
愛と真実の 悪を貫く
ラブリーチャーミーな 敵役
ムサシ! コジロウ! …

テレビアニメ「ポケットモンスター」に登場する敵役、ロケット団のムサシとコジロウは、登場するときに必ず右の決め台詞を言うので、知っている子どもも多いはずである。この台詞はまさしく七五調で、しかも一、二句、三、四句が対句仕立てで、『祇園精舎』と同じ構造である。

祇園精舎の 鐘の声
諸行無常の 響きあり

沙羅双樹の 花の色

盛者必衰の 理をあらはす …

平家物語は「平曲」として、耳から人々に親しまれたもので、『祇園精舎』はその冒頭である。耳で聞いてわかりやすく、人を惹きつけるリズムとして、平家物語の時代、七五調は既に定着していたのであろう。

このように、七五の句を繰り返す歌謡には、平安末期から鎌倉期に流行した「今様」がある。現在放送中の大河ドラマ『平清盛』のオープニングで、現代的なメロディにのせて歌われている「遊びをせん」とや 生まれけむ…は、「今様」の中でも、最も知られた曲であらう。

「知らざあ言って聞かせやしよう」

ポケモンのロケット団は、主人公サトシからピカチュウを奪い取ろうとする泥棒一味である。泥棒の決め台詞というところから考えれば、ロケット団の台詞に直

接的な影響を与えているのは、河竹黙阿弥『白波五人男』の台詞であらう。

知らざあ言って 聞かせやしよう
浜の真砂と 五右衛門が
歌に残せし 盗人の
種は尽きねえ 七里ヶ浜
(…中略…)
名さえ由縁の 弁天小僧
菊之助とは 俺がこった

女装の盗賊、弁天小僧菊之助が男であることを見破られて、自ら名乗る場面での有名な台詞である。ロケット団も弁天小僧も泥棒であり、「何だかんだと聞かれたら 答えてあげるが世の情け」と、「知らざあ言って 聞かせやしよう」の意味するところも同じである。また、ムサシが宮本武蔵、コジロウが佐々木小次郎に由来していることは明らかである。毎度、ピカチュウの十万ボルトで吹き飛ばされるロケット団ではあるが、実は日本文化の伝統にのっとったなかなか粋な泥棒である。

東野泰子

大阪府生まれ。論文に『奥義抄』から『僻案抄』へ「そが菊」注にみる院政期歌学の一様相」(『国語国文』)など。共著書に『八雲御抄の研究』正義部作法部(片桐洋一編和泉書院)、『宴曲索引』(伊藤正義監修和泉書院)などがある。

新版教科書で、楽しい書写授業を

上越教育大学附属中学校教諭

清水陽一郎

しみずよういちろう
清水陽一郎

1970年生まれ。東京学芸大学書道科卒業後、新潟県中学校教諭を経て、上越教育大学大学院にて書写指導について研究。現在上越教育大学附属中学校教諭。全国大学書写書道教育学会会員。上越国語教育連絡協議会書写委員。

さまざまな実践をされている清水先生に、三回にわたって連載していただきます。第一回は、新版教科書をご覧いただきながら、書写授業のアイデアをお聞きしました。

行書の特徴をとらえる

— 今回の学習指導要領では、行書の確実な定着が求められています。新版教科書ではその点も重視して、構成を工夫しましたが、ご覧になっていかがでしょうか。

清水 楷書と行書を大きく示して「違いを話し合おう」としているページがいいですね(※1)。比べるからこそ見えてくることって、たくさんあると思うんです。これまでは、私が楷書と行書をそれぞれ半紙に書いて、子どもたちに見せていた

のですが、あらかじめ教科書に示されていると、準備の時間がかからず助かります。

このページを見せて、「見比べて気づいたことを発表しよう」と投げかけると、子どもたちは「行書は線がつながっている」「行書には丸みがある」などの特徴を挙げるでしょう。その後、両開きのページをめくって、行書の五つの特徴を確認させたいですね(※2)。限られた時間の中で、行書を確実に定着させなければならぬので、行書の特徴がパッと見てわかりやすくまとめられているのは、ありがたいです。

— 先生は、行書の筆使いについても丁寧

に指導されていますね。「国語教育相談室63号」で、ご紹介いただきました。

清水 子どもたちに、行書を書いている様子を真上・横など、さまざまな角度からデジタルカメラの動画機能を使って撮影させ、行書と楷書の筆使いの違いを考えさせました。筆使いを言葉で説明することは難しいのですが、「筆を上下させないで一気に書いている」「流れるように筆を運んでいる」など、子どもたちなりの表現で議論し、説明していました。これからも、そうやって考えさせた後に、教科書の「点画の方向や形が変化するときの筆使いを知ろう」(P28・29)を見せ

たいと思います。行書の筆使いの特徴について、図やイラストなどを使って詳しく説明されていますから、合わせて活用したいですね。

2 目的意識や相手意識をもつ

— 行書の確実な定着とともに、「目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書くこと」も求められていますね。

清水 書字行為で、目的意識や相手意識をもつことが重視されています。私は以前、「校外学習でお世話になったお年寄りの方に手紙を書く」という授業をしたことがあります。そのときに、「楷書、行書どちらで書いたらよいか」と子どもたちに話し合いました。すると、「お礼状だから、きちんとした楷書がいいと思う」「いや、年配の方に書くのだから、昔の手紙のように、すらすらと書いた行書がいいと思う」と意見が分かれたんです。最終的には、どちらの判断も射っていると思ったので、それぞれがよいと思うほうで書かせました。また、小筆・ボールペンなどの用具や、封筒や便箋などの用材についても、どんなものを選ん



※1 楷書と行書の違いについて話し合う教材。見開きで大きく示した。(P22,27)



※2 両開きのページをめくると、行書の成り立ちや筆使いの特徴が一目でわかるような紙面構成になっている。(P23-26)



※4「伊勢物語図色紙」の文字と配列を紹介したコラム。(P57)

な感覚で、きつと授業が盛り上がり、国語の授業ともつながるし、平仮名のもとなつた漢字や、変体仮名にも興味をもつきっかけにもなると思っています。

—今日は、楽しいアイデアをたくさんお話しいただき、ありがとうございます。次号から、清水先生が実際に行われた授業をご紹介いただきます。

うかなあ。私は違う感じ方をしたけど」と話す子など、さまざまな反応があつて楽しい授業でした。

それから、身の回りの文字ということでは、いつかNHKの大河ドラマの題字を子どもたちと分析してみたいと思つています。いま放映されている『平清盛』は、金澤翔子さんという若い書家の、力強い書です。大河ドラマの歴代の題字は、著名な書家が手がけているものが多いのですが、さかのぼって見ると、「翔ぶが如く」(一九九〇年)は、原作者・司馬遼太郎氏の書、「毛利元就」(一九九七年)は、毛利元就自身の書、と多彩です。また、題字に込められた思いやエピソードがとても興味深い。いつか授業で取り上げてみたいと思つています。

—新版教科書では、コラムのコーナーも充実させました。先生の心に留まつたものはありましたか。

清水 「昔の人が書いた文字を見よう」(※4)はいいですね。このページと関連づけて、「竹取物語」の写本を子どもたちに見せたいと思つています。そして、「くずし字辞典」を使って、当時の人が書いた文字を読み解かせてみたい。少し高度に思えるかもしれませんが、「竹取物語」は比較的平易な書き文字なので、中学生でも無理なく取り組めると思ついます。暗号を解くような感覚で、きつと授業が盛り上がり、国語の授業ともつながるし、平仮名のもとなつた漢字や、変体仮名にも興味をもつきっかけにもなると思っています。

他には、「デザイナーと文字」(P71)も興味深く読みました。このように、文字にかかわる仕事をしている人の話をもっと聞いてみたいです。例えば、結婚式の招待状や賞状の名前書きをする筆耕屋さんに、場面によって、どんなことに気をつけて書いているのか、うかがつてみたいです。

それから、以前に、フォントデザイナーが出てくるテレビ番組を観たのですが、「ドット(・)のデザインにもこだわっている」「近くで見たときと、引いてみたときの印象、どちらも考えてデザインする」など、書風・書体への強いこだわりが、とてもおもしろかったです。子どもたちにフォントデザイナーの話を紹介したり、近くにフォント会社があれば、インタビュしたりしてもいいかもしれない。手書き文字だけでなく、活字文字についても世界を広げることが、将来、子どもたちがパソコンで文章を書くときに役立つと思つています。

3 身の回りの文字を調べる

—三年生の学習事項には「身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと」が加わりました。これも、今回大きく変わったところですが。

清水 いろいろな授業展開が考えられそうですね。教科書に「身の回りの文字を集めてレポートにまとめ、紹介しよう」というページ(※3)がありますが、私も同じような授業を行ったことがあります。子どもたちに、家にあるちらしや雑誌を持つてこさせたり、街に出て看板の写真を撮らせたりして、自分が「いいな」と思う書き文字を集めさせました。しか

だ方がよいのか話し合わせました。そうやって議論することで、目的や相手に合ったものを、選択しようという意識が高まってくるんです。

私は、書写の授業でも、なるべく「思考」の部分で充実させたいと、いつも思つています。子どもたちに議論させたり、気づいたことを発表させたりするなど、言語活動に結びつけることを意識しています。

し、文字を集めることはできても、「なぜ、いいのか」と聞くと、言葉でうまく説明ができないんです。

それで、持ち寄つた文字をグループで分析させることにしました。すると、「書きぶりが柔らかくて、この商品のイメージに合っている」「行書で大胆に書かれ

た文字が、このお店の『和』の雰囲気と調和している」など、子どもたちなりに文字から受けるイメージを言語化して、論理的に説明しようとしていました。そして、最後にはレポートにまとめ、クラスで発表会を行いました。発表を聞きながら「ああ、わかる」と共感する子や、「そ

※3 身の回りの文字を集め、レポートを作って発表する教材。(P68-69)



平成24年度版中学校『国語』移行資料

この資料は、弊社『国語』教科書が平成18年度版から24年度版へと継続使用される学校において、文法・言語・漢字の指導が円滑に行われるよう作成したものです。

① 文法および言語等に関する事項の主な相違点（扱う学年が下がるもの）

				18年度版
④訓読	③敬語	②付属語	①単語の分類	
2年	3年	3年	2年	
1年 P 151	2年 P 113 〜 115	2年 P 199、 P 213、 P 223 〜 224 (※)	1年 P 204、 P 227 〜 230 (2年 P 219 (※))	24年度版

※「前学年の復習」

①～④の生徒用の教材は該当部分の抜き刷り資料をお届けします。次の学習時等でご指導いただくようご配慮をお願いいたします。

① 2年「文法への扉1」（P 64）の学習時

② 3年「文法への扉1」（P 66）の学習時

③ 3年「言葉を使おう」（P 64）の学習時

④ 2年「漢詩の風景」（P 147）の学習時

② 新出漢字の移動と新版での指導箇所

次表は、改訂により「新出漢字」として学習する機会がなくなる漢字について、新たに指導していただく箇所を示したものです。

表1 新版を2年用から使い始める場合

旧版2年・3年から、新版1年へ新出箇所が移動したもの。

表2 新版を3年用から使い始める場合

旧版3年から、新版1年・2年へ新出箇所が移動したもの。

例えば「維」は、旧版2年から新版1年へ新出箇所が移動した漢字ですので、2年生から新版を使う場合には、2年 P 127「繊維」のところで新出漢字としてご指導ください。

注1 用例中に（ ）で示したものは、以下の場合について用例を補ったものです。

- ・ 下学年に既に提出され、以後教科書中に用例がない場合。この場合は、適当な機会に取り立てて指導を行ってください。
- ・ 用例が語として提出されていない場合。
- ・ 用例が固有名詞の場合。
- ・ 用例が中学校では学習しない音訓の場合。

表1
新版を2年用から使い始める場合

漢字	初出学年	指導箇所	用例
襟	3 1		(襟元)
琴	2 1	122	琴
扱	2 1	22	証拠
糾	3 1		(糾弾)
及	2 1	138	及ぶ
還	2 1	71	帰還
緩	3 1	31	緩む
勧	3 1	233	勧誘
患	2 1		(患者)
渴	2 1	167	枯渴
掛	2 1	76	掛ける
穫	2 1	67	収穫
較	2 1	33	比較
懷	2 1	181	懷中
皆	2 1	46	皆さん
餓	2 1	167	飢餓
箇	2 1	33	箇条書き
靴	3 1	203	靴ひも
穩	3 1	223	穩やかだ
閱	2 1		(校閲)
疫	3 1	86	時疫
韻	2 1	148	余韻
陰	2 1	91	陰湿
維	2 1	127	繊維

漢字	初出学年	指導箇所	用例
唇	2 1		薄い唇
辱	2 1		侮辱
殖	2 1		(増殖)
詳	2 1	29	未詳
晶	3 1	57	与謝野晶子(結晶)
称	3 1	80	総称
旬	2 1		(三月中旬)
塾	2 1		(学習塾)
獸	2 1		(獣医)
汁	3 1	178	苦汁
狩	3 1	262	塩狩峠(狩り場)
脂	2 1	273	脂汗
彩	3 1	125	油彩
込	2 1	20	飲み込む
絞	2 1	42	絞る
香	3 1	58	芳香
甲	3 1	78	手の甲
継	2 1	59	歌い継ぐ
携	2 1	88	携わる
傾	2 1	84	傾く
茎	2 1	110	かぼちゃの茎
繰	2 1	77	繰り返す
隅	2 1	16	片隅
吟	3 1	34	吟味

漢字	初出学年	指導箇所	用例
泊	3 1		泊
賠	3 1		(賠償)
輩	2 1	178	輩出
濃	2 1	55	濃霧
忍	3 1	105	忍ぶ川(忍び寄る)
凍	2 1	99	冷凍食品
添	2 1	43	添える
超	2 1	43	超える
挑	3 1	33	挑戦
沖	2 1	137	沖の方
蓄	3 1	85	蓄え
遅	2 1	57	遅れる
棚	2 1	75	机と棚
泰	3 1	262	入江泰吉(安泰)
耐	2 1	85	耐える
藻	2 1		(藻類)
騷	2 1	75	喧騒
壮	2 1	88	壮大
双	2 1	137	双方
薦	2 1	51	お薦め
籍	3 1	41	国籍
析	2 1	41	分析
据	3 1	252	据える
穂	3 1	206	稲穂

注2 旧版1年から新版の2・3年へ学年を繰り上げて提出した漢字は、新版2・3年教科書で「新出漢字」として扱われています。その場合は重ねて指導することになりますので、あらかじめそのことを生徒に知らせるからお知らせください。

注3 平成22年の常用漢字表の改定に伴い、新たに追加された漢字(196字)、および音訓は本表では扱っていません。以下のページに練習問題として取り上げていますので、ご活用ください。

1年 P 241～246（追加漢字80字、小学校で学習する漢字に追加された音訓）

2年 P 243～248（追加漢字88字、小学校で学習する漢字に追加された音訓）

3年 P 227～234（右記1・2年で挙げた追加漢字168字）

※残りの追加漢字と付表の語はP 256～257で取り上げています。

表2
新版を3年用から使い始める場合

審	囁	醸	譲	奨	晶	称	緒	俊	汁	愁	狩	寂	湿	執	惨	彩	恨	香	拘	甲	娛	弦	謙	漢字
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	18 24 学年
2	2	2	2	2	1	1	2	2	1	2	1	2	2	2	2	1	2	1	2	1	2	2	2	24 学年
3			3		3	3	3		3		3	3		3	3	3	3	3		3			3	学年
86			51		100	20	148		21		63	26		80	79	101	87	62		57			198	ページ
上9			上12		3 段目	脚注	2		12		9	16		上13	下11	1 段目	下4	3		下11			上8	指導箇所
不審	(囁託)	(醸造)	譲る	(奨励)	池田晶子(結晶)	称号	玉の緒【お】	(俊足)	汁の実	(哀愁)	鷹羽狩行(狩り場)	寂しい	(湿り気)	執る	悲惨	色彩	恨めしい	香	(拘束)	甲乙	(娛樂)	(管弦楽団)	謙虚	用例

悔	寡	靴	禍	穩	疫	為	扱	漢字
3	3	3	3	3	3	3	3	18 24 学年
2	2	1	2	1	1	2	2	24 学年
3		3		3	3	3	3	学年
79		23		20	86	132	125	ページ
下9		20		3	下1	下5	下13	指導箇所
悔やむ	(寡黙)	靴下	(禍福)	穩やかだ	時疫	行為	扱う	用例

胞	捕	覆	幅	瓶	漂	扉	疲	繁	罰	漢字
3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	18 24 学年
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24 学年
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	学年
	57	57	37	95	76	64	48	151	48	ページ
	12	脚注	下2	6	上15	題	上13	5	漢字欄	指導箇所
(細胞)	捕らえる	覆う	言葉の幅	空き瓶	漂う	文法への扉	疲労	繁華	懲罰	用例

賠	媒	陪	忍	篤	搭	陶	陳	挑	弔	鑄	蓄	鍛	泰	怠	賊	粗	租	拙	籍	逝	是	据	穂	漢字
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	18 24 学年
1	2	2	1	2	2	2	2	1	2	2	1	2	1	2	2	2	2	2	1	2	2	1	1	24 学年
	3		3	3	3	3	3	3		3	3	3		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	学年
	255		87	270		254	244	242		85	100		30	118	108		194	165	251	240	252	206		ページ
	4 段目		上8	1 段目		注	1 段目	リード		下15	3 段目		下5	18	脚注		下2	下15	2	2 段目	下12	4		指導箇所
(賠償)	媒体	(陪審員)	堪忍	武者小路実篤(温厚篤美)	(搭乗)	陶製	岸本重陳(陳謝)	挑戦	(慶弔)	(鑄る)	蓄え	鍛える	(安泰)	怠惰	匪賊	粗い	(租税)	拙い	書籍	逝く(逝去)	是非	据える	稲穂	用例

脚	喫	岐	緩	勸	勘	括	効	漢字
3	3	3	3	3	3	3	3	18 24 学年
2	2	2	1	1	2	2	2	24 学年
3	3	3	3	3	3		3	学年
60	50	156	87	118	84		209	ページ
6	下11	出典	上16	3	上7		下15	指導箇所
行脚(三脚)	喫茶	岐阜県(分岐)	緩める	勧める	勘定	(包括)	効(弾効)	用例

黙	免	減	魅	膜	墨	肪	妨	乏	飽	漢字
2	2	2	2	2	3	2	2	3	2	18 24 学年
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24 学年
	2	2	2	2	3	2		3		学年
	75	55	67	35	202	264	278	100		ページ
下21	表中	17	2	上2	上段	下10		4 段目		指導箇所
黙々と	運転免許証	壊滅的	魅力	鼓膜	薄墨いろ	脂肪分	(妨げる)	貧乏	(食べ飽きる)	用例

漢字	初 学 年	指 導 箇 所	段・行	用例		
麗	3	2	3	216	下段	奇麗（美麗）
零	3	2				（零細）
累	3	1				（累加）
涼	3	1	3	58		涼しい
欄	3	1	3	40	下9	欄
窯	3	2				（窯元）
憂	3	2				（憂い）
幽	3	2	3	141		狩野探幽（幽霊）
諭	3	1	3	209	下20	諭（教諭）
厄	3	1	3	19	2	厄介
墨	3	1	3	119	11	薄墨色
乏	3	1	3	100	4段目	貧乏
胞	3	1				（細胞）
遍	3	2	3	141		僧正遍昭（遍歴）
弊	3	2				（弊社）
幣	3	2	3	134	下1	貨幣
賓	3	2				（来賓）
泌	3	2				（分泌）
藩	3	2	3	90	注2段目	白河藩主
閥	3	2				（財閥）
罰	3	1	3	21	13	罰が当たる
泊	3	1	3	90	注2段目	一泊

螢	薫	吟	襟	挟	享	狂	糾	漢字
3	3	3	3	3	3	3	3	18 24 学年
2	2	1	1	2	2	2	1	24 学年
3	3	3			3	3		学年
94	102	34			150	82		ページ
下8	夏の季語	上15			脚注	上14		指導箇所
螢光灯	風薫る	吟味	(襟元)	(挟む)	貞享五年(享受)	狂う	(糾弾)	用例

廊	浪	曆	墨	累	涼	欄	溶	諭	厄	漢字
2	2	2	2	3	3	3	2	3	3	18 24 学年
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24 学年
	2	2	2	2	2	2	2	3	3	学年
	31	150	29	223	122	120	80	209	19	ページ
下10	13	春のこよみ		表中	秋のこよみ	上1	注1 段目	下20	2	指導箇所
廊下	浪人	旧曆	(盗墨)	累加	涼しい	投書欄	溶かす	諭(教諭)	厄介	用例

光村図書ホームページを、ぜひご覧ください

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

毎日の指導に役立つさまざまな資料が、弊社ホームページ「光村チャンネル」に掲載されています。

🏠 トップページ

シーズン・インタビュー

教科書教材の作者や筆者を中心に話を伺うコーナーです。2012年春号では、「光で見せる展示デザイン」(3年)の木下史青さんへのインタビュー記事を掲載します。

国語教育相談室

最新号は、こちらからPDFファイルでご覧いただけます。

赤木かん子の読書Q&A

読書に関するさまざまな疑問に、赤木かん子先生がお答えします。



光村コミュニティ

会員専用ページです。指導案、「国語教育相談室」のバックナンバーなどの資料がダウンロードできます。

光村メールマガジン

月2回配信しているメールマガジンです。ご登録・バックナンバーはこちらから。

教科書クロニクル

光村が発行してきた国語教科書を一挙ご紹介!

📖 国語トップ



📖 書写トップ



各教科のページにアクセスすれば、年間指導計画資料や教材別資料など、さまざまな指導用資料をダウンロードすることができます。

平成24年度版 中学校「書写」移行措置について

平成24年度より、中学校でも新学習指導要領が全面実施されます。

本年度一、二年生になる生徒には、新学習指導要領に基づいた「中学書写一・二・三年」が供給されますが、三年生になる生徒は、平成23年度に供給された「中学書写二・三年」を継続して使用することになります。したがって、学習指導要領に新設された次の事項について、学習を補う必要があります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

- ①二年(2)イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。
- ②三年(2)ア 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。

事項①は、新版「中学書写一・二・三年」P58～61、事項②は、P66～71に示された学習内容と対応しています。恐れ入りますが、ご指導の際は、新版教科書と合わせてご対応いただきますよう、お願い申し上げます。

移行措置につきまして、ご不明な点等ございましたら、弊社第一編集部書道課(〇三―三三九三―三三九四七)までお問い合わせください。

平成24年度版中学校指導書・教科書の誤りについて

4月からお使いいただきます平成24年度版中学校指導書・教科書に以下のような誤りの箇所がございます。深くお詫びするとともに、ご指導の際には十分ご注意ください。すようお願い申し上げます。

■中学校国語「学習指導書 2上」

P42～43の「アイスプラネット」の教材分析「構成」で、内容のまとまりを「四つ」としてありますが、正しくは「五つ」です。

差し替え用のPDFを弊社ホームページ「光村チャンネル」に掲載いたしました。ご参照いただきますようお願い申し上げます。

「光村チャンネル」>「中学校 国語」>「学習指導書の誤りについて」
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasyo/chugaku/kokugo/>

■「中学書写一・二・三年」教科書

72ページ「2 未来に向かって」の図版で、2段目「配列」の段の6行目「行の中心」を「→p13」としてありますが、正しくは「→p16」です。

平成24年度版「中学書写一・二・三年」教科書

ページ	行	誤	正
72	図版2段目「配列」の段の6行目	行の中心 →p13	行の中心 →p16